

教育哲学研究

第101号

2010

研究討議 公共哲学と教育哲学の接点を求めて

- 公共哲学と教育哲学の接点を求めて——高等教育改革の視点から—— 増淵 幸男
コミュニタリアニズムの教育哲学——共同体に基礎をおく公共哲学と人間形成論の帰結—— 生澤 繁樹
公共哲学と教育哲学の接点を求めて——「公共性の哲学」の視点から—— 宮寺 晃夫
研究討議に関する総括的報告 早川 操/野平 慎二

課題研究 労働と教育

- 労働的人間形成の論理とその今日的意味について
——自我の自己形成を巡る1800年前後のドイツ思想の一断面—— 池田 全之
実践における「労働と教育」 村松 憲治
教育における労働の脱規範化へ向けて
——アレントによるマルクスの読みかえに着目して—— 小玉 重夫
課題研究に関する総括的報告 森田 尚人/加藤 守通

論文

- アウグスティヌス教育思想研究の問題点 神門 しのぶ
母と子の間で身体が生まれる——ドイツ啓蒙教育学における「身体＝メディア」論序説—— 弘田 陽介
カントの教育思想における幸福の意義
——「感性的な幸福」と「最高善における幸福」の間で—— 広瀬 悠三
初期および後期ニーチェにおける「仮象」概念の比較検討
——「美的なもの」の人間形成論的な意義再考のために—— 盧 珠妍
レヴィナスにおける苦しみをめぐり思考と人間形成への問い
——「無益な痛み」を中心に—— 平石 晃樹

エッセイ

- 教育現実の構成と教育哲学の構成 田中 每実

教育哲学を考える

- 哲学することの教育哲学 松下 良平

特定課題研究助成プロジェクト報告

「教員養成課程における教育哲学の位置づけに関する再検討」

- 研究プロジェクト二年目の中間報告について 林 泰成/古屋 恵太
学生が教育哲学を「役立つ」と感じる要因は何か
——教員養成における教育哲学の有用性に関する調査研究(2)—— 下司 晶/木村 拓也
学校現場における教育哲学の意義 林 泰成
教員養成に果たす教育学教育のあり方をめぐって(覚書) 船寄 俊雄

「教育学史の再検討」

経過報告森田 尚人
『聞き書 村井実、上田薫 回顧録』を読む田中 每実

研究状況報告

デューイとの対話——デューイ的思索の過去・現在・未来——早川 操／松下 晴彦／生澤 繁樹
Women's Studies をめぐる差異のポリティクス藤原直子／虎岩朋加

書評

W・ブレッツィンカ著、小笠原道雄、坂越正樹監訳	
『教育目標・教育手段・教育成果——教育科学のシステム化——』今井 重孝
田中智志著『社会性概念の構築——アメリカ進歩主義教育の概念史——』古屋 恵太

図書紹介

今井康雄編『教育思想史』佐藤 隆之
今村光章著『環境教育という〈壁〉——社会変革と再生産のダブルバインドを超えて——』丸橋 静香
小川博久、岩田遵子著	
『子どもの「居場所」を求めて——子ども集団の連帯性と規範形成——』井谷 信彦
小笠原道雄、大野篤一郎、山本幾生編『ディルタイ全集』第6巻（倫理学・教育学論集）森 邦昭
O・F・ボルノウ著、岡本英明監訳『練習の精神——教授法上の基本的経験への再考——』中野 優子

学会報告・第52回大会報告

欧文摘要

教育哲学会